

第1回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：令和7年11月11日（火）午前10時00分から午前11時30分

開催場所：別海町役場 1階 103・104会議室

出席委員：佐藤瑠依、武田隆、棚橋昌博、中澤豊子、平澤珠美、麻郷地聡

（欠席委員 今井加奈、大橋正汰、大森和男、高橋智美、吉野朋博）

<会議次第>

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

報告1 令和6年度別海町自治基本条例運用状況報告書について

報告2 令和6年度「べつかい協働のまちづくり補助金」の実績について

議題1 今後のスケジュールについて

議題2 今後の取り組みについて

4 その他

5 閉会

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

報告1 令和6年度別海町自治基本条例運用状況報告書について

資料1を用い、事務局から説明。

<1ページ、委員の公募状況について>

今年度は、令和8年4月1日からの「自治推進委員」について公募を行う予定あり

<3ページ、アンケート調査の実施状況について訂正>

2 本別海へき地保育園の今後のあり方に係るアンケートの回収率

正) 20% 誤) 2%

【意見、質問】

委員

アンケート結果について、広報誌等で周知しているか。

事務局

スペースの都合で掲載できないことのほうが多いと思う。ホームページ等での報告が主となっている。

委員

パブリックコメントへの意見数はやはり少ない。役場などへは用事があって来るのでわざわざパブリックコメントの冊子を手にとって読まないと考える。

そのほか、ホームページとなっているが、確認しない。

委員

ホームページは見なくても、LINE配信されるお知らせは確認することが多い。周知におけるLINEの活用は効果的であると考ええる。

事務局

上手に活用しながらも、いわゆるデジタル難民の方々を取り残さないよう、様々な方法を考えていく必要があると考える。

報告2 令和6年度「べつかい協働のまちづくり補助金」の実績について

資料2を用い、事務局から説明。

【意見、質問】

委員

補助回数の上限については5回か。

事務局

同一団体の同一目的に対しては5回を上限としている。

委員

事業内容を確認したうえで採択されていると感じる。単発ではなく継続的に地域とつながる内容となっており、発展していい事業になっていると感じる。

令和6年度から、評価委員による審査会を廃止したが、役場での審査で不採択となった事業はあるか？

事務局

数件ある。

委員

年間補助総額の上限はあるか。先着順となるのか。

事務局

予算の範囲内での交付となる。ただし、相談を受け、交付の必要性が判断された場合、補正要求を行うことでの対応も考えられる。

基本的に先着順ではあるが、早めに相談をしてもらうことで、実施時期が遅い事業につ

いても実施を考慮し予算を確保しておくことは可能。

委員

制限をかけるよりは、実施してもらい継続性を持たせることが重要と考える。

今後、町内の異なる地域においても同一要素のものは一緒にやるなど、まち全体としてのイベントが出てきたらよいと思う。

委員

5回交付後に自立していくための協議も必要。

議題1 別海町自治推進委員会スケジュールについて

事務局から資料3のとおり提案。

【意見、質問】

なし。資料3のスケジュールのとおり進めていくことで承認。

(12月に第2回開催、2月に第3回開催、3月に町長へ意見書を提出)

議題2 意見書について

事務局から資料4のとおり提案。

<資料の見方>

中央がこれまでにあった各委員からの意見

左がその意見に対応する自治基本条例の条項

右が意見書への記載内容(・はこの後の質疑等で委員からあった意見など補足などを想定している)

(1)「情報の共有と情報の提供」

【意見、質問】

委員

口コミで回ってくる情報はネガティブなものが多いので、改善内容や実施進捗状況などポジティブな情報を発信されると不安感が減るので、住民に共有されると良い。

委員

人が集まる場所に出向いて説明を行うなどが効果的。

委員

中央以外の地域だと、口コミでの情報が入って来ない・遅い。

高齢者においては、行政からのお知らせの情報源は町内会での回覧板。町内会の代表者など回覧板じゃないにしても、地域にとって身近な人を介して伝える形が効果的ではないか。

委員

地域の人材活用・育成が必要。

中央に集めて・まとめてという時代じゃない、自分たちの地域や地区でやっていく必要がある。

事務局

集落支援員等、国でも進めている制度があり活用できる可能性もある。

委員

集まって話をし、交流するだけでも得られる情報もある。

事務局

(4にも関わる内容) 情報発信も双方向でできることが重要と考え、その仕組みを考えることも必要。

(2)「町民参加と推進方法」

【意見、質問】

なし、記載の内容で事務局においてまとめる。

(3)「まちづくりと地域のコミュニティ」

意見書への記載「(1) 専門家や組織的な対処」として、地域おこし協力隊やファシリテーターなどを投入することなども必要と考えている。

【意見、質問】

委員

若い世代のリーダー育成のため、若者を奮い立たせる何かがあればいいと考える。

委員

町には様々な計画があるが、将来展望というのはどの計画になるのか。数年に1回などでもよいので、計画の進捗状況の報告などがあれば良いと思う。

事務局

「別海町総合計画」である。名前の響きから住民の皆さんにはとっつきにくいかもしれない。誰が見てもわかるような形にすることも考えている。

毎年広報に掲載している「今年のしごと」が計画に基づくその年の事業の内容となって

いる。

また、町長がいう50年後の将来を見据えてまちづくりをしていくために、将来像は文字だけではなく、絵として視覚的にわかるようにして、住民と共有していくことを考えている。

(4)「その他」

3つのテーマに当てはまらないものをここに記載している。

【意見、質問】

委員

相談窓口については、役場OBなど行政に詳しい人に住民意見の聞き取り役などを担ってもらえるのもよいのではないか。役場の知識も豊富で、住民からの相談を必要な部署に取り次ぐことも容易ではないだろうか。

また、総合案内のような住民が立ち寄りやすい場所で相談に乗ってもらえると、住民も利用しやすいのではないか。

事務局

集落支援員等の制度を活用することもよいかもしれない。他の自治体の事例なども確認してみる。

委員

地域と役場をつなぐ存在がいるといい。

住民同士も同じ年代や境遇の人でないと共感にくいと思うので、「思いが同じ人」をつなげることも必要。住民同士をつなげる存在もあるとよい。

こういった存在に対しても、旅費や人件費を出せる制度が必要と考える。

委員

議会の「地域懇談会」は、議員と懇談できる良い機会と思うが、なんとなく敷居が高くて参加しにくい。特に女性は参加しづらいように感じた。参加しやすいような運営方法を検討してほしい。

議会の懇談会に限らず、テーマを定めないほうが、いろいろな意見が言えてよいかもしれない。

<意見書について、資料を基に本日の委員の発言を整理して必要事項追記していく>

5 その他

事務局

第2回会議の日程調整を送付する（12月中旬～下旬での実施）

次回は、事務局にて作成した意見書の素案について協議を行う。

6 閉会